

まちの皆様のお力をお借りして、体験活動を推進

2月の龍野学も、地域の皆様のお力をお借りしました。写真左は、下川原



の小林自治会長様の茶室で行われた6年生の茶の湯体験の様子です。龍野みらい舎の「ちょっと見ん家」企画に参加させていただきました。また写真真ん中は、4年生が龍野城に関する学習をまとめたレポートを展示した中央公民館まつりの様子です。このレポートは龍野城や歴史文化資料館などにも展示していただいているのですが、それぞれの館が子どもたちのために展示の仕方を工夫してくださっています。写真右は3年生のみそづくり体験の様子です。井戸靴店様を先生にお招きし、子どもたちがみそづくり体験をしました。わくわくしながら作業する様子とみその完成を待ち望む声をたくさん聞くことができました。



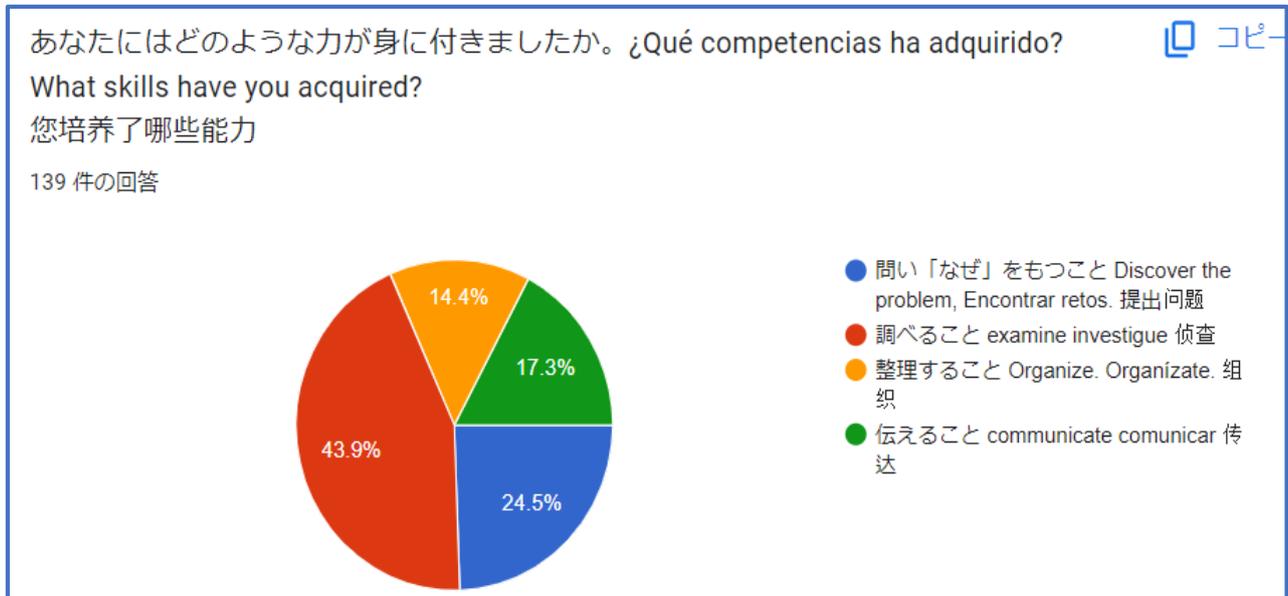
また、2月27日には、5,6年生がお城で弓矢体験をしました。この体験は、今年度から4年生の龍野学に位置付けたのですが、これまでに体験をしていない5,6年生にも体験をさせたいと思い、お願いしたところ、快く引き受けてくださいました。

心に響く体験は、大人になっても忘れないそうです。子どもたちみんなに「ふるさと龍野」のよさを直接体験を通じて感じ取り、後の時代にまでつないでほしいと思います。

2023年度からスタートした「龍野学」も、3月に3年生の針金赤とんぼづくり、1年生とこども園5歳児さんのひな人形づくり(龍野ひなまつりに参加します。作品は東門の掲示板です。),そして6年生の龍野古城めぐり(後援 スポーツ21龍野)で終了します。開校150年を迎える2024年度も子どもたちが地域の「ひと・もの・こと」とふれあえる龍野学を継続していきたいと思います。ご協力・ご支援をお願いいたします。

「龍野学」をふり返り、どんな力がついたかな

龍野学を学んだ3年生以上の子どもたちに、どんな力がついたと思うかをふり返ってもらいました。139名が回答し、結果は次のとおりです。問いをもつことが24.5%、調べることが43.9%、整理することが14.4%、伝えることが17.3%でした。



これからの教育では、問いを立て、その問いの解決に向けて学びをすすめる「探究的な学び」が求められています。子どもたちの結果を見ると、問いを立てたり調べたりすることへの意識が伸びているのがよく分かります。とてもうれしい結果です。自由記述で理由を書いてもらったので、問いを立てたり調べたりすることが身に付いたと回答した子のうち、主な理由をいくつか紹介します。

- ・調べるってこんなに楽しかったんだと思って、どんどん調べるようにしています。
- ・調べるのも得意じゃなかったけど、調べるたびに上達した気がします。
- ・だって僕は調べていろいろなことをまなびたいしそのしらべたことをみんなに言いたいからです。
- ・探索することや検索がすきで、探索するときはワクワクするから。
- ・問いを持つと答えを見つけられることができるから
- ・龍野学をしてからいろんなことに疑問を持つようになったから
- ・自分たちで問いを立てて、解決することを頑張った。
- ・たくさん情報から、いるものと不要なものを区別できるようになったから。
- ・問いを持ち疑問を広めれば解決策が生み出されるから
- ・龍野に関するものを調べるときに、いる情報か、正しい情報かを考えてできたから。
- ・今まであまり興味がなかったことについて興味が湧き、調べたいことができたから。
- ・一つの疑問からどんどん疑問が生まれて調べることが増えたから
- ・なぜだろうと思った時はいつも調べるようにしている。
- ・分かればわかるほどじゃあなんでかな?が出てくるからです。

以上 原文のまま記載

どの記述からも、子どもたちががんばっていた様子が思いうかべられます。2024年度も地域の皆様に支えていただきながら、龍野学を通じて、探究的な学びを育成したいと思います。